KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、毎年春に京都を舞台に開催される国際的な写真祭「KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭」をご紹介します。

京都ならではの写真祭を目指して

2022年に記念すべき第10回を迎えたKYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭。日本および海外の重要作品や貴重な写真コレクションを、趣のある歴史的建造物やモダンな近現代建築の空間に展開し、ときに伝統工芸職人や最先端テクノロジーとのコラボレーションも実現するなど、京都ならではの特徴ある写真祭を目指して開催されています。2022年は4月9日（土）から5月8日（日）まで、10のメインプログラム、3のアソシエイテッドプログラムが開催されました。

「ONE」

KYOTOGRAPHIEは、その時々の社会情勢や、世界の状況を踏まえ、「今」大事なことをフェスティバルのテーマとされます。記念すべき10回目を迎えた2022年のテーマは「ONE」。『一つのもの（個）がそのものとして、他のすべて（全体）を自らに含みながら他と縁起の関係にある。このとき、この一つのものと他のすべてが同体の関係にある。』このテーマは、そのような思いを込めて掲げられました。

「MACHIYA VISION」
久保家邸宅会場の設営の様子

KYOTOGRAPHIE 2022
関係者集合写真

（Photo by Naoyuki Ogino）

左から、KYOTOGRAPHIE 共同創設者／共同代表
仲西 祐介 氏
同 テクニカルディレクター　髙橋 弘康 氏
同 田中 曜 氏

「MACHIYA VISION」

2022年は、2020年に引き続き、まちセンとのコラボレーションにより、京町家の未来へのビジョンを発信するプロジェクト、展覧会「MACHIYA VISION」を開催しました。

KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭では、これまでにも多くの京町家を会場に写真展を開催し、京町家の魅力を国内外へ発信されてきました。

写真展を通じて実際に京町家に訪れ、京町家をフィールドとする研究者や活動家の方々のインタビュー映像等をご覧いただくことで、より実感を持って、京町家の現状、重要性を感じることができたのではないでしょうか。

今回展示した映像では、京町家に関する様々な論点が提示され、京町家がもたらす持続可能な未来への示唆を見出すものとなりました。

これまでとこれから

日本では、カメラやプリントの技術は世界を先導しているにもかかわらず、「写真」の表現媒体としての評価は高くありません。表現手段としての「写真」の可能性を見据えるべく立ち上げられたのがKYOTOGRAPHIE京都国際写真祭です。そこから新しい価値が生まれてくることを信じ、フェスティバルをさらに発展させるべく、これからも歩み続けられます。

2022年の開催概要

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2022（https://www.kyotographie.jp/）
会期：2022年4月9日（土）～5月8日（日）
主催：一般社団法人KYOTOGRAPHIE
共催：京都市、京都市教育委員会
後援：京都府、在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本

ニュースレター
京まち工房 99
公益財団法人　京都市景観・まちづくりセンター

CONTENTS

特集1 P2-3 京町家等のクリエイティブ拠点創出に向けて 京町家再生事例
特集2 P4-5 進んでいます、地域の防災まちづくり
P6 展覧会「MACHIYA VISION」　P7 「私と京都」／スタッフのつぶやき／表紙イラスト作者紹介　P8 企業・団体紹介

令和4年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様

「京くらし」ネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR this is japan. ISETAN	「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
京都市観光協会 KYOTO CITY TOURISM ASSOCIATION	ART GALLERY & RENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	京町家をお探しします。株式会社 八清（ハチセ）	京都信用金庫	SAPPORO
中藏	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency	

ニュースレター京まち工房　第99号　2022年6月　編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：https://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

KES ステップ1登録
この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京町家等のクリエイティブ拠点創出に向けて

京町家等継承ネットでは、国土交通省補助事業「令和３年度住宅市場を活用した空き家対策モデル事業」に採択され、「京町家等のクリエイティブ拠点創出に向けた企業誘致推進事業」に取り組みました。本事業は、京都への拠点進出を検討している首都圏のIT企業やクリエイティブ企業、起業家などの担い手の掘り起こしや、大型町家をはじめとする歴史的建造物の利活用の促進を目的とするものです。一連の取組の内、不動産情報ポータルサイト「MATCH YA」の拡充と普及啓発に関しては本誌97号で紹介しましたので、今回は、以下の3つの取組についてご紹介します。

01 活用事例に関連したトークセッションの開催

トークセッション vol.1　テーマ：**「京都」という選択。**

令和４年２月14日開催（オンライン形式）

参加者 105名

対　　象：首都圏の企業、起業家
登 壇 者：近藤　淳也（株式会社OND代表取締役社長）
　　田根佐和子（株式会社ロフトワーク MTRLプロデューサー）
司　　会：柳沢　究　（京都大学大学院工学研究科准教授）　（敬称略）
配信会場：京都もやし町家

京都を拠点に創造的なビジネスを展開されている講師をお迎えし、京都で仕事をし、場を創り、人と繋がることの可能性について語り合っていただきました。感度の高い企業が、あえて古い木造建築をリノベーションして拠点とした意図を探りました。

UNKNOWN KYOTO 外観（近藤氏より）　FabCafe Kyoto内観（田根氏より）

トークセッション vol.2　テーマ：**「京町家」を継ぐということ。**

令和４年２月17日開催（オンライン形式）

参加者 75名

対　　象：支援専門家、空き家所有者
登 壇 者：荒川　朋彦（有限会社キタ商事取締役）
　　小笹　嘉洋（京町家所有者）
司　　会：高村　学人（立命館大学政策科学部教授）　（敬称略）
配信会場：新大宮広間

創造的な場づくりや活用スキームの実践をされている京町家所有者を講師にお迎えし、先進的な活用事例を紹介しました。受け継いできた京町家に対する想いを伺い、地元京都に資産を持ち続けるにあたり、京町家が直面している課題と未来を考えました。

荒川邸　小笹邸

02 活用・改修事例の収集・紹介、京町家クリエイティブ拠点の魅力等の整理

京町家等の空き家の利活用、継承に係る相談体制を強化するため、京町家クリエイティブ拠点の可能性や課題について検討ワーキングにて基礎資料を作成しました。この内容については、「MATCH YA」に掲載する予定です。

検討ワーキングメンバー（敬称略）
池井　健（一級建築士）　岡田　良子（一級建築士）　タナカ　ユウヤ（コワーキングスペース運営経験者）

京町家クリエイティブ拠点としての活用・改修事例の収集・紹介

比較的新しい利活用事例に着目し、オフィス、複合施設、文化発信拠点等のクリエイティブ拠点の事例をリスト化し、検証しました。18件の事例のうち4件については、「MATCH YA」にて紹介しています。

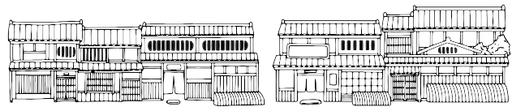
オフィス活用事例

京町家クリエイティブ拠点の魅力や留意点の整理

活用希望者の傾向を把握し、京町家拠点の魅力と留意点をまとめた整理シートを作成しました。

京町家クリエイティブ拠点
　京町家クリエイティブ拠点とは
　京町家クリエイティブ拠点の可能性
なぜ　京都？
京町家の魅力とは？
京町家で気を付ける点は？

魅力と留意点　整理シートの構成



03 支援専門家の育成および相談体制の強化

支援専門家の育成　活用手法や資金調達スキームの知見を支援専門家と共有・蓄積するため、意見交換会を開催しました。

【第1回意見交換会】2021.8.26開催
京町家等の不動産市場流通の動向と不動産事業者の意向について

【第2回意見交換会】2021.9.14開催
歴史的建築物の保全・継承に向けた公民連携による資金調達スキームの検討
及び投資のニーズについて
話題提供：三菱商事・ユービーエス・リアルティ株式会社 三輪　慎一氏

【第3回意見交換会】2021.12.22開催
京都の不動産への最近のニーズに関する感触やクリエイティブ拠点の可能性について
話題提供：株式会社51ActionR&D(京都R不動産運営) 代表取締役 水口　貴之氏

水口氏の話題提供より

相談体制の強化　相談体制の強化として、京都市や不動産事業者との連携を実施しました。

京都市との連携
企業誘致を推進する京都市の東京事務所や産業イノベーション推進室等との協力体制を築き、トークセッションの告知に協力いただき、首都圏企業等への発信を行いました。（参考）京都市企業誘致プロジェクト「Kyo-working」URL）https://kyo-working.com/

不動産事業者との連携
MATCH YA登録事業者と連携して、活用希望者への不動産情報の提供や内覧対応を実施しました。

京町家再生事例「下京区 角田邸」

今回ご紹介する京町家は、下京区の角田邸です。角田邸は、紳士服付属品卸商を閉めるにあたり、店舗として使われていた表の間を居住スペースとして改修されました。以前はモダンな印象だった外観を京町家の外観に戻し、表の間も和室にされました。まちセンは、改修計画を実現されるにあたってご相談をお受けしました。

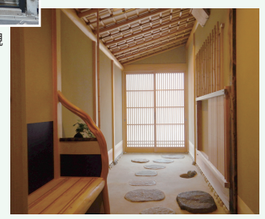
京町家を改修されるまでの経緯や、ご自宅への想いなどをお伺いしました。

［お話：角田忠男氏（京町家所有者）］

角田さんご夫妻（表の間にて）

角田邸外観

改修前の外観



露地の様子

仕上がりに納得

改修工事には思ったより時間がかかりましたが、丁寧な仕上がりを見ればそれも納得できました。新しい建物を建てるのではなく、古い建物を直すのは制約もあるので大変だったと思います。当初想像していた以上のことをしていただいたと、建築士の先生（栗山裕子氏）と大工さん（堀工務店）に感謝しています。床柱のアカマツ、床框の天然絞の北山杉の丸太など、こだわりの材料を手配していただき、仕上げていただきました。化学製品が使われていない和室は、心や身体にも優しく、大きな安らぎを感じます。

改修のきっかけ

建物を潰して駐車場にする話もありましたが、建物がなくなれば家族の歴史やこれまでの自分の生活までもなくなってしまうと感じ、外観と表の間を京町家として再生することを決意し、まちセンに相談しました。計画の段階では、数多くの京町家を見て回り、大切に手入れされている建物の良さを実感し、伝統的な京町家への想いを強くしました。以前から露地と茶室風の和室をつくりたいと思っていましたが、実現するためには、人任せではなく自分から提案してぶつけていくことも大切だと思い、ずいぶん勉強もしました。

改修を終えて

改修後は、息子もこの建物に興味を寄せてくれているので、大切に思う気持ちが伝わったのではないかと思います。ご近所の方からは「とても綺麗になった」と言っていただきました。抜いていた柱を戻したこともあり、建物も丈夫になりました。友人を招いて趣味を楽しむ空間として大切に使っていきたいと思います。

進んでいます、地域の防災まちづくり

京都市内に残る京町家や路地などは、生活の基盤として、人々の暮らしが息づき、京都の生活文化を伝える一方、地震などの災害発生時には、建物の倒壊や火災の発生、燃え広がりによる避難や救助困難が予想され、災害時の課題となっています。バブル以降のマンション建設や、観光客・インバウンドの増加によるホテル建設ラッシュが続いた中京区でも、今なお京町家や路地が残り、地域の町並みに歴史都市としての奥深さを感じさせます。令和元年度から防災まちづくりの取組を始め、令和3年度に防災まちづくり計画を策定した中京区の2学区の取組を紹介します。

梅屋学区

「自分の命は自分で守る。守った命で他人を守る。」

堀川丸太町の南東に位置する梅屋学区は、平成26年度から、京都市の地域連携型空き家対策促進事業を活用し、自主防災会を中心に、「梅屋まちづくり活動チーム」を立ち上げ、まちあるきや、空き家・危険家屋等を把握する地図の作成に取り組んできました。

空き家対策が進展したことで、かねてから目標であった、空き家対策と防災を一体化した取組を進めることとなり、空き家対策での成果を活用した防災まちづくりの取組を始めました。

こんな事に取り組んできました!

- コロナ禍での取組：感染対策に配慮しながら、防災行事を続けました。
- 防災体験会では…段ボールベッド、テントの設営体験や避難所レイアウト体験で指定避難所の狭さを実感。梅屋広場に設置されているかまどベンチを使って炊き出し訓練も実践しました。
- 防災訓練では、早くからペット避難の啓発にも取り組んできました。

段ボールベッド組み立て体験

炊き出し訓練

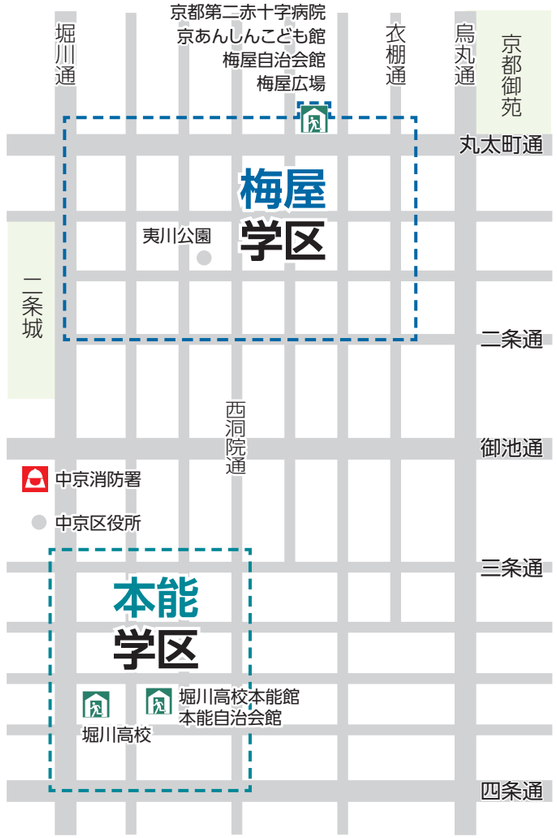
ペット避難の啓発

計画書　これからの活用

住民以外のことも考える

学区外から訪れる人が多いことを考慮し、商業施設や宿泊事業者に、避難情報として「防災マップ」の提供を計画しています。

今後は、空き家の情報を町内で把握したり、身近な消防設備である消火器が適正に管理されているかを確認するための「確認シート」や、防災の取組を継続していくための「引き継ぎシート」等、目的ごとに情報を共有できる仕組みづくりに向けて、検討と充実を進めていく予定です。



会長挨拶　梅屋自主防災会　**関 昌一 会長**

空き家など身近な問題から防災に関心を持っていただきたいと思います。
これからは、他の各種団体との連携を強化しながら取組を進めていきたいと思います。

本能学区

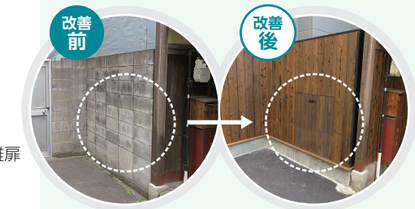
「便利で快適な暮らしのもとで、住民みんなが支え合い、安心して暮らせる災害に強い本能」

四条堀川の北東に位置する本能学区は、利便性が高く、1990年代後半に学区内でマンション建設が相次いだことから、京染・呉服関係の住民が住まう「職住一体」という特色の喪失と、新たな住民の増加によって起こりうるコミュニティの希薄化に危機感を募らせていました。そこで、1998（平成11）年に発足した本能まちづくり委員会が中心となり、地区計画の策定や、毎年秋に開催されるイベントで染の工房巡りを開催する等、地域の交流を促進するまちづくり活動に取り組んできました。地震が頻発する昨今、京都での地震災害に備えるため、自主防災会が主体となって、防災まちづくりに取り組み始めました。

こんな事に取り組んできました!

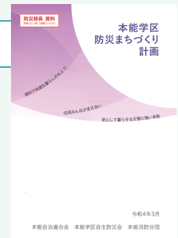
- 避難所運営ゲーム（HUG）：意識を高めるきっかけづくりとして防災訓練でHUGを活用しました。（NL90号でもご紹介しています）
- 民生児童委員会会長の参加：ハード改善だけでなく、町内で顔の見える関係づくりや、子どもや高齢者などの見守りの視点も考えました。
- 安全性向上のための取組：町内会から働きかけることで、ホテルと災害時の緊急避難路の協定を結ぶことができました。また、事業者の協力により、路地奥に、周囲の景観に配慮した緊急避難扉が設置されました。

避難所運営ゲーム（HUG）



緊急避難扉の設置

計画書　これからの活用



マンション防災も考える

学区内のマンションは堅牢な建物が多いですが、災害時、マンション設備やインフラが機能しなくなる可能性も念頭に、マンションの防災力を高め、復旧に備えたアイデアも取り入れました。コロナ禍の2年間は防災訓練が実施できなかったため、今年度は計画書の中で提案されている地域の実情に合った避難所開設・運営ゲームを活用し、住民の機運を再び盛り上げながら、取組の継続と避難所運営マニュアルの改定につなげる予定です。

会長挨拶　本能自主防災会　**倉部 邦夫 会長**

計画策定は一段落しましたが、これで完成ではなく、これからも進化、改善を目指します。避難所運営マニュアルの改定と共に、みんなが自分事として防災を考え、継続して取り組んでいきたいと思います。

3年間の取り組みから

計画策定に取り組んだ3年の内2年間が、コロナ禍により、多くの人が参加しての取組が進められない中、防災まちあるきや全戸アンケートにより、地域の資源と防災上の課題を詳細に収集し、意見交換会を通して、計画づくりを進めてきました。

両学区とも、学区内の各所に、幅の狭い道や建てられてから年月が経った木造家屋が点在する一方で、学区全体としては建物の更新は進んでいるため、これまで他の地域で策定されてきた防災まちづくり計画のように、町やブロックごとのきめ細い計画、具体的な課題箇所の対策ではなく、一人一人の意識啓発や、住民同士が連携して地域の防災力を高める関係づくりや体制の構築に主眼が置かれています。

コロナ禍で、人と人とのつながりが弱まることが危惧されたからこそ、見守りの視点や、ともに助け合う意識の大切さが再認識されたのだと感じられました。

ハード面の対策や、多様な関係者間の結びつきを促進するとともに、取組や成果を発信し、防災への関心を高めながら、災害に強いまちづくりに取り組んでいきたいと思います。

未来へ受け継ぐべき京町家に思いを寄せて

当財団では、令和4年4月に、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭（以下KG）との共催で展覧会「MACHIYA VISION」を開催し、5月8日、盛況のうちに幕を閉じました。この試みは令和2年度に引き続き2回目となります。今回はテーマに「Sustainability（持続可能性）」を掲げ、メイン会場の「久保家邸宅（旧今尾景年邸）」と、KGのInformation Machiyaである「八竹庵（旧川崎家住宅）」の2ヶ所を会場とし、京町家に関わる研究者や活動家の方々へのインタビューやダイアログを収録した映像、京町家の資料などで構成した展示を行いました。

01 メイン会場

久保家邸宅（旧今尾景年邸）

久保家邸宅は、日本画家・今尾景年氏が大正3年（1914）に建築した居宅です。これまで料亭や事務所として活用されており、今回の展示では、新緑の美しい庭園に囲まれた1階部分を、久保家のご厚意により公開する形となりました。会場内の室礼について、景年氏のお孫さんにあたる景之氏にご協力いただき、景年氏とその養嗣子にあたる景祥氏の御軸も飾らせていただきました。また、会場内のお花については、梶原美恵子氏（一般社団法人方扣庵）にご協力いただき、建物の魅力を更に引き出していただきました。

ダイアログご出演（写真左より）

ウスビ・サコ氏
（京都精華大学前学長）

矢ヶ崎 善太郎氏
（大阪電気通信大学工学部建築学科教授）

濱崎 加奈子氏
（公益財団法人有斐斎弘道館代表理事）

モデレーター：原 瑠璃彦氏
（静岡大学専任講師）

奥庭

外観

玄関より

映像展示の様子

書見台展示の様子

02 Information Machiya 内会場

八竹庵（旧川崎家住宅）

Information Machiya内会場では、ダイアログ出演者のインタビューや、八竹庵の所有者である黒竹節人氏（株式会社くろちく代表取締役会長）と髙田光雄氏（京都美術工芸大学教授）の対談等を映像で展示した他、八竹庵や撮影会場となった有斐斎弘道館、藤田家住宅、釜座町町家の紹介パネル等を展示しました。

今回の展覧会「MACHIYA VISION」では、素晴らしいご縁に恵まれ、会期中は多数の方々に御来場いただけたことに感謝しています。「MACHIYA VISION」特設WEBサイトでは、会場で展示していた映像のロングバージョンや、5月6日に開催したシンポジウムの映像などがお楽しみいただけます。

展覧会「MACHIYA VISION」特設WEBサイト
https://kyoto-machisen.jp/machiya-vision/

※P8に掲載されているKYOTOGRAPHIE京都国際写真祭の団体紹介もぜひ合わせてご覧ください。

展覧会「MACHIYA VISION」開催概要

【メイン会場】

開催期間：令和4年4月27日（水）～5月8日（日）
時　　間：午前10時～午後5時
会　　場：久保家邸宅［旧今尾景年邸］1階
（京都市中京区六角通新町西入西六角町101）
来場者数：約1500名

【Information Machiya内会場】

開催期間：令和4年4月9日（土）～5月8日（日）
時　　間：午前10時～午後7時
会　　場：Information Machiya 2階
KYOTOGRAPHIE総合・周辺観光案内所
（京都市中京区新町通六角上る三条町340 八竹庵［旧川崎家住宅］）

私と京都

京町家をビジネスの友として

(一社)京都府不動産コンサルティング協会 元会長／株式会社都ハウジング 代表取締役社主
岡本（おかもと） 秀巳（ひでみ） 氏

私が京町家の存在をビジネスの対象として本格的に認識しはじめたのは2004年（平成16年）4月から始まった、京町家を不動産証券化手法を用いて保全利活用しようという事業のスタートの頃でした。

私の会社は宅地建物取引業を始めて48年になりますが、当時この仕事を伸ばしていく為には仲介だけでなく不動産コンサルティングの視点からの業務展開が必要という共通認識をもった有志が、2003年10月に（一社）京都府不動産コンサルティング協会を立ち上げました。活動の柱として注目した証券化という金融手法は米国から持ち込まれたばかりで教科書もなく手探りの状態でしたが、町家利活用の為には金融面からのアプローチも必要とした私達の呼びかけに官公学金と各界専門職の皆さんより賛同をいただき、京町家証券化事業研究会という推進母体を発足させることが出来ました。

京都市やまちセンをはじめとする研究会参画の皆様にご協力をいただいて事業推進に努め、六角新町・東山安井・新宮川町の3戸の町家を苦労して取得しました。不動産証券化とは一般の方からお金を集め、不動産を取得し改修して賃貸し、家賃を配当にあてるという仕組ですが事業実施には近畿財務局の認可が必要であり、それはそれは筆舌にあらわしがたい難行苦行となりました。認可後のお金集め（出資募集）にもうひと山あり、2010年10月に3戸の売却益で最終配当を実施、財務局へ終了報告し全てを終えた時は大きく安堵したことを鮮明に覚えています。ちなみに苦労を共にした協会の会友は井上誠二（建都住宅販売）、西村孝平（八清）、吉田光一（フラット・エージェンシー）と私の4者でした。

私たちの情熱は枯れることなく、次に荷の軽いと言われる管理信託手法に挑戦し、先例により京町家管理信託事業研究会を推進母体として北区紫竹、南区京都駅南口の町家と連続して取り組み、大阪府不動産コンサルティング協会会員の信託会社に財務局対応を依頼し、3物件の改修利活用を実現しました。

2021年8月に京都市もサブリース手法により京町家賃貸モデル事業として実施されました。中京区壬生の町家を京都市が借り上げこれを公募事業者に転貸し、同事業者が改修賃貸して長期間の賃料で改修費を回収するという仕組です。この事業者も協会の会員で、問題の資金調達はクラウドファンディングという現代的なシステムを採用しました。

この様に町家（空き家）の利活用には改修が欠かせません。経験からは数百万円から数千万円を超える工事費が必要となり、利活用でなく解体に向かう大きな理由となっています。多額の工事費の調達は中小の不動産業者にとって難関ですが、私はこれからも不動産と金融の融合したシステムを追求し組織的な対応によりハードルをクリアーしてまいります。

これが、青少年時代に町家で育った私のライフワークであろうと思っています。

スタッフのつぶやき

今回から表紙のイラストを「福ねこ お豆のなるほど京暮らし」でおなじみの山口珠瑛さんにお願いすることとなりました。京都の風物詩やくらしの文化を、愛らしいイラストでご紹介いただきます。

今回のイラストは、京都の夏の行事あれこれをご紹介いただきました。中でも、水無月は京都の6月には欠かせないお菓子です。おいしくて無病息災にもつながるなんて、最強なのではないでしょうか。個人的にも大好物なので、6月30日に頂くだけではなく、様々なお店の味を食べくらべしたいと思います。

今年は、祇園祭も3年ぶりに本来の形で山鉾巡行の行事が催行されるとのことです。様々な困難にも屈することなく蘇るお祭の様子を目に焼き付け、日常を取り戻す第一歩を踏み出したことを実感したいと思います。

表紙イラスト作者

アトリエ TAM **山口 珠瑛**（やまぐち たまえ）

絵本作家、イラストレーター。京都生まれ。京都育ち。
母の実家が仏光寺の近くの町家で、小さな頃よく町家で遊ぶ。
「町家えほん」「福ねこお豆のなるほど京暮らし」発売中。
ユーチューブで京の生活を発信中。
「ふくまめ京暮らし」で検索してくださいませ～

ボク京まちくん
よろしゅうお願い申します

京の６，７，８月は暑い中にも
身を清める行事や神事がたくさん
あって、少し涼しくなった夕方頃
から出かけるのに
ちょうどええなぁ～
今年は祇園祭山鉾巡行
もしはるし、
なんか華やいだ気持ちに
なりますなぁ～